礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
北九州市若松区小石
発行　編集
若松高校新聞部
印刷所
阪本印刷所　(76)1527

行事予定

8月21日　出校日
9月1日　二学期始業式
上旬　文化祭
下旬　体育祭

目立つ生徒の無関心

アンケート結果

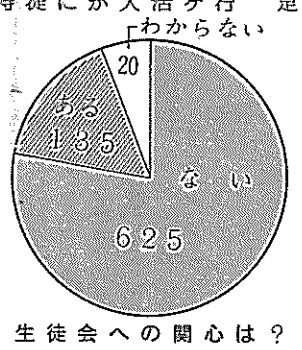
活動状態をはっきりと

▽現在、執行部役員が定員不足である事は、誰でも知っている事と思うが、△
▽このような状態を若高生が、どのように考えているか。また、執行部に△
▽対してどんな考え、意見を持っているかを、アンケートしてみた。△

六月九日の生徒大会までは、会長と副会長のふたりだけだった執行部も、新しく副会長一名、書記一名を加え四名になった。しかし依然として、会計、書記の立候補者は現われず、定員不足のまま活動している。

このような状態の執行部の活動についてアンケートした結果、生徒会活動に興味を持っている人は全体の約四分の一しかおらず、他の人は活動に参加するどころか、生徒会に対して何も関心を持っていないことが分かった。

まして、自分が立候補してみようという人は、九百人中三十人位しかいなかった。



生徒会への関心は？

しかし、ほとんどの人が生徒会役員を必要だと思っているようではあるが、定員不足の会計・書記の補充については、「やりたい人がやればよい」「立候補者がいない」「たよりない」「生徒との連帯感がない」「学校側に対して、反抗的になりすぎる」「生徒会活動に、魅力がない」「活動内容がわからない」などという批判の意見が多く出た。

更に、「執行部に何を望みますか」の質問に対し、「やる気を出してほしい」「校内行事（クラスマッチなど）をふやしてほしい」「生徒に関係のある事に力を入れてほしい」「風紀問題に取り組んでほしい」「生徒と密着した生徒会にしてほしい」というような意見が多く出た。

これらの意見に対し、執行部は「みんないつも知らんふりをしているから、生徒会なんかどうでもよいと思ってるのかな」と思っていましたが、みんなよく生徒会執行部の活動を見ているので、びっくりしています。ぜんぜん活気がないという意見は、現在の執行部を客観的に判断したものとして、強く反省しています。たよりないという意見また生徒との連体感がないという意見には、執行部の活動を表に出さないといけないと感じました。元来僕は、内気な青年ですので心に感じるところがありました。現在四人で活動していますが、なかなか思うように活動できません。特に、体育祭、文化祭の行事をひかえている現在、具体的な準備をするにあたって猫の手、犬の足も借りたいくらいですが、ガリ刷りや、人手集めで自分のやりたいことが充分やれないのが残念でたまりません。ぼやきをいいすぎてもう終りですが、最後にこの調査をしてくれた新聞部、意見をくれた生徒諸君に感謝します。」

生徒の中には「執行部がつぶれても自分たちには関係がない」と思っている人がいるかもしれないが、もし、執行部がつぶれ、生徒会活動が行なわれなくなったら、どうなるのだろう。第一に体育祭、文化祭などの行事が円滑に行なわれなくなる。また、クラブ活動にとって最も重要な予算作成は難がすることになるのだろうか。更に大きな問題が起こった時に、若高生の中心となって、それらの問題を解決するのは誰なのだろうか。

我々は、この事をよく自覚して執行部が活動しやすいように、協力しなければならない。若高の生徒会は、若高生全員の手で守らなければならないのだから。

全国大会に夢をかけて

排球部初出場

四月下旬から各運動部では、地区大会、県大会などが行なわれた日頃の練習の成果を発揮した結果又は、これからの予定などを、ここに紹介してみよう。

排球部（男子）―六月十七日に行なわれた地区大会では、東筑高校、八幡工業高校、小倉商高校を破り、決勝戦でも九州工業高校を二対一で破った。また、六月二十三日に行なわれた県大会予選では八女工業高校、香椎工業高校を二対〇で破り、ベスト四進出。また六月二十四日に決勝リーグが行なわれ、直方高校には二対〇で惜敗したが、柳川商業高校、嘉穂高校をともに二対〇で破り、第二位の成績をおさめ、全国大会出場権を獲得した。なお、全国大会は、岐阜市内の会場で、八月一日に開会される予定である。

庭球部（男子）―六月十日に行なわれた全国大会予選の個人戦では、中西・宮崎組が敗者復活戦で大川高校、築上中部高校を破って全国大会出場権を獲得。

また、六月二十四日に行なわれた国体九州大会予選の個人戦は、江藤・永田組が一回戦で、中西・宮崎組も二回戦で惜敗。

弓道部―六月九日に行なわれた地区大会及び県大会予選で男子は平山宗雄が個人で二位、女子団体は三位に入賞。また、六月十七日に行なわれた県大会及び全国大会予選では惜しくも破れてしまった。

ハンドボール部―六月二・三日に行なわれた全国大会北部予選と六月九日から十一日まで行なわれた全国大会県予選では、ともに二位の成績をおさめた。

水泳部―六月二十三・四日に行なわれた地区大会では、一五〇〇㍍自由型　山崎大輔　一位、一〇〇㍍、二〇〇㍍背泳ともに　佐藤幸治　二位、一〇〇㍍自由型　山崎大輔　二位、二〇〇㍍個人メドレー　浦本愛彦　六位、一五〇〇㍍自由型　安河内隆司　四位、四〇〇㍍メドレーともに四位に入賞した。

剣道部―六月十七日に行なわれた地区大会で準優勝し、全国大会予選の出場権を獲得した。

山岳部―六月一・三日に英彦山で行なわれた地区大会の団体戦では、戦勝したが、個人戦では振わず総合三位の成績をおさめた。

サッカー部―六月三・七日に行なわれた地区大会予選では、八大付属高校と戦い、惜しくも敗退した。

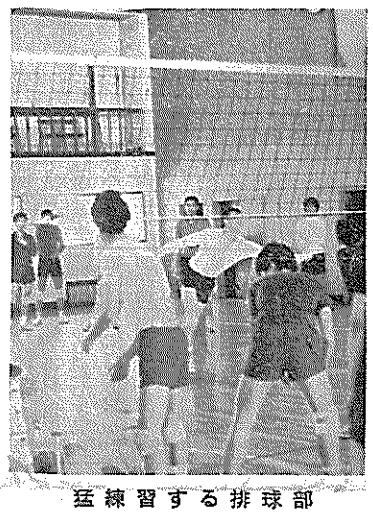
ラグビー部―地区大会では、一回戦で、常磐高校に不戦勝し、二回戦で大里高校と対戦し敗退した。

陸上部―六月九日に行なわれた県大会予選は、一〇〇㍍決勝で高橋雄二が七位の成績をおさめたが県大会には出場できなかった。

籠球部（男子）―六月に行なわれた県大会では、一回戦で嘉穂高校に惜敗した。

野球部―七月十五日に行なわれた県北予選の一回戦では、敬手商業高校と対戦し、三対〇で破り二回戦進出。

以上であるが、今年は例年になく各クラブの健闘が目立つ。これを機会に各クラブの活躍を期待したいものである。


猛練習する排球部

汗とほこりの総合優勝

若戸大会

夏の暑さが、日増しに強くなっていく七月、その暑さも最高と思える程の十一日に、若松・戸畑地区の県立高校六校で、親善の為の大会、若戸大会が開催された。

今回は、若松地区で開催され、約七千人もの生徒が、若高をはじめ各開催場所に、つめかけたのである。例年、各クラブ同士で競われてきた大会であるが、今回よりクラスマッチ形式がとられ、各クラブに所属していない人によって男女別、学年別に競われた。

例外として、庭球、柔・剣道は一般の人では無理な点があるとして、例年通り、各クラブの選手によって競われたのである。

ここに、結果を記載しておく。

陸上―男子は、一・二年が二位三年が優勝。女子は、二・三年が優勝、一年は惨敗に終わった。

バスケット―男子は、二・三年優勝、一年は惨敗だった。

庭球―男子は、全学年優勝。女子は、一・二年が二位で、三年が優勝。

バレーボール―男子は、全学年とも優勝。女子は、二年が二位、一・三年が三位。

卓球―男子は、二年が優勝、一年が三位、三年は惨敗だった。女子は、一・三年が優勝、二年は惨敗だった。

ソフトボール―一年が三位、二・三年は惨敗だった。特に二年はストレートで勝った。三年は残念ながら、一回戦で破れた。

柔道―三年が優勝、一・二年は三位。

水泳―他の競技と違い、学年別で行なわれた地区大会に準優勝し、全国大会予選の出場権を獲得した。

山岳部―六月一・三日に英彦山で行なわれた地区大会の団体戦では、戦勝したが、個人戦では振わず総合三位の成績をおさめた。

サッカー部―六月三・七日に行なわれた地区大会予選では、八大付属高校と戦い、惜しくも敗退した。

ラグビー部―地区大会では、一回戦で、常磐高校に不戦勝し、二回戦で大里高校と対戦し敗退した。

陸上部―六月九日に行なわれた県大会予選は、一〇〇㍍決勝で高橋雄二が七位の成績をおさめたが県大会には出場できなかった。

籠球部（男子）―六月に行なわれた県大会では、一回戦で嘉穂高校に惜敗した。

野球部―七月十五日に行なわれた県北予選の一回戦では、敬手商業高校と対戦し、三対〇で破り二回戦進出。

以上であるが、今年は例年になく各クラブの健闘が目立つ。これを機会に各クラブの活躍を期待したいものである。

空虚な二時間

中断された生徒大会

去る六月九日、執行部の役員改選後初めての生徒大会が行なわれた。

議題は、生徒会費の二十円値上げと予算の承認・選挙制度の改正案の問題であった。

まず、生徒会費値上げの件、これは四月二十六日に討議されたがまだ結論が出ぬままになっていたものである。そして九日、この大会において可決したわけである。

それに関連して今度は文化部・体育部の代表二名による、物価の値上がりからの予算不足を、北九州市内の公立高校生徒会費の資料から若高は少ないなどの理由で、やっと認められた二百円を是非二百三十円に値上げしてほしいとの意見がでた。

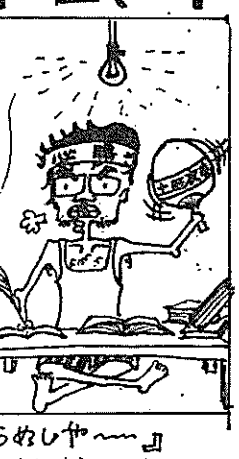
次に、執行部の選挙制度の改正案について、執行部からこれまでの経過報告。本来ならば、生徒会執行部は会長一名、副会長二名、書記二名、会計二名の合計七名で構成されるのが普通である。ところが、会長と副会長一名の二名しかいないというのが現状である。

これでは生徒会は発展しない。そこで選挙制度の改正を提案したというのであった。選出法は、一年制とし、五月選挙で第一次選挙、第二次選挙にわけて四名選出、十一月選挙で前者同様にして三名を選出する。これに賛成意見が一つでた。そのあと採決。これは全校生徒の三分の一以上の賛成を必要とし、この結果、賛成七百三名と三分の二に満たなかったのでこの提案は否決した。

そのあと、執行部の副会長、会計に立候補した河村宏敏君（一の九）、飯干正義君（一の四）の二名が立会演説を行なった。どちらもやる気充分で選挙の結果、当選しさっそく活躍している。

今回の生徒大会は、いつものごとく意見を述べたのは数名でありまた始めから終わりまでの雑談という若高生の無関心さにはまったく感心させられる。というわけで生徒大会は中断した。自分たちの問題ということを、もっと自覚して参加することができないものだろうか。

若高戯評



礫陵言

☆大学を卒業して九年、いまにして思うのだが、ぼくはいったい大学で何を学んできたのだろうか。

悔いを残していることは一杯あるが、酒も飲んだし、本もいくらか読んだ。畢生の友人にもめぐりあったし、総じていえば、あれはあれでよかったのだとも思う。

しかし最近、なんだか一番大切なものを学び忘れてきたような気がしきりにする。

☆ぼくは、ベスト・セラーなどというのをあまり読む気がしないたちなので、今まで知らずにいたのだが、「文芸春秋」の六月号で「サンダカン八番娼館」をたまたま読んだ。

江戸末から昭和の10年代ごろまで、東南アジアなどへ春をひさぐために出かけていった「からゆきさん」と呼ばれた悲しい女性たちのルポルタージュであるが、ぼくが興味を魅かれたのは、そのことよりも（そのこともだが）、作者の研究態度（生きる態度というべきか）である。

30代半ばの女性が東京に夫と子供を残し「からゆきさん」を求めて単身天草にのりこんでくる。だが、誰も語ってくれようとはしない。それらしき老婆にやっとめぐり合い、家を訪れると、まるで廃屋。タタミは腐り、むかでのすみか、座っているひざの上に一匹、二匹とはい上がってくる。――作者はそこに住みこんで、ついに老婆の心をとらえていく。

☆むかでの住むタタミに寝、ボロボロの変めしとみそしるにのどをつまらせ、子供への想いに死ぬ苦しみを味わいながら、ついに目的を達成していく。

いったい作者は、どこで、どうやって、あのあくなき探究の心を学んだのだろうか。

☆考えてみれば、学問するということはそのようなものなのかもしれない。残念ながらぼくは、学問することの、あのようなきびしさを、今まで学んできていないような気がする。学ぶ機会、気がつく機会は、いっぱいあったはずなのに、気がつかずに今日まできている。

（I）

後始末は自分の手で！

紙コップ処理問題

故障多い販売機

コーラ自動販売機の故障が、最近特に目立って来た。それと同時に紙コップの後始末の悪さが目につく。紙コップの販売機に変わった理由を再確認して我々のとる態度を考える必要があるのではないか。

現在の紙コップのコーラ自動販売機に変わって、約半年が過ぎた。

最近は暑さを増すにつれて、販売機周辺の昼休み時の混雑は、すさまじいものである。利用度が高くなるにつれて販売機の故障が目立ってきたようだ。

例をあげれば、ジュースが出てもコップに入らなかったり、原液が出ても炭酸水が出てこなかったり、悪いことにはコップが出てこない時、ジュースだけが素通りするのを見ているのはみじめなものである。味がまずくなってきたなどの悪評判もある。その他、お金を入れても出てこない、おつりが出ない等々。一度は経験したことだろう。特に暑い時などは気が立ってくることもしばしば。中には販売機をたたく人もいる。この紙コップの自動販売機に変わって一段と故障が多くなってきたようだ。

ここで、この紙コップの自動販売機に変わったいきさつを述べてみよう。

昨年の十一月、一年生の男子が四階の窓から投げたコーラの瓶が偶然にも、中庭で掃除をしていた一年生の女子に当たるという事件があった。この事件が発端となって空瓶の後始末の悪さが問題となってきた。そこで、この現状を打破する為の対策として紙コップに切換えてみたわけである。しかし今の状態を見ると、以前と本質は何ら変わっていないのではないだろうか。

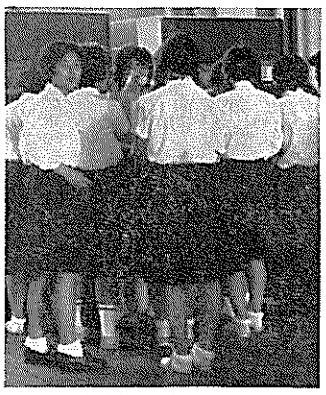
自動販売機の故障、味の悪さをせめる前に、自分自身の行ないを再確認してもらいたい。食堂の裏にはゴミ捨て場のように紙コップが捨ててある。その他、校舎の周辺、みその中、廊下など、いたるところに赤い紙コップが目につく。販売機の横に二つの大きい紙コップを捨てるボリバケツがある、あれが目につかない人はいないはずだ。それを無視しておかまいなしに投げすててある。近頃、足でコップを踏みつけて大きな音を出して遊んでいる人がいるようだ。その人達はその踏みつけた紙コップの後始末はどうしているのだろうか。多分、踏みつけたままで行く人が多いのではないか。

空瓶の後始末の悪さが問題となって、その現状を打破する為に変えられた紙コップの販売機であるが、あの時の状態から見て紙コップの処理問題が発生し、当然今の悪処理に陥る可能性は考えられ、予測できたはずである。

紙コップにすると空瓶を戻す必要もないし、問題も起らないだろう、ということで出された案であったのだろうか。切換える時点で再度案を練ってほしかった。

生徒の間では、教室等に持って行くとき不便である。時間がかかる。よく故障するなどの理由で以前の瓶の販売機に変えてほしいといった声が聞かれる。しかし、それはあまりにも一方的な意見である。紙コップにするように仕向けたのは他でもない、私達生徒自身であり、自業自得である。たとえ瓶に変えたとしても、悪循環で何の意味もなくなるだろう。

盗難・着帽・バイク通学etcこれらのどれを取り上げてみても解決した風紀問題はない。また、それらにこの紙コップの悪処理が加わった。瓶から紙コップその先は、というと廃止ということになりかねない。廃止させない為の手段として、紙コップをゴミ箱に捨てるぐらい簡単なことではないだろうか。



ならんでならんで

カメラアイ

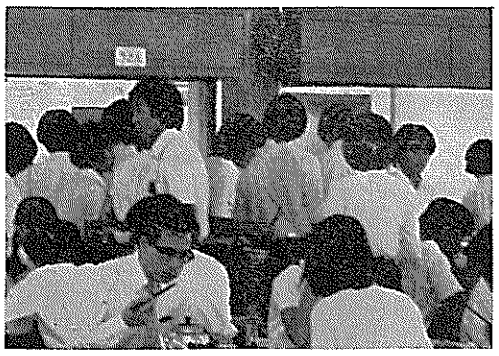
下の写真は、食堂の食券売場とカウンターの混雑の状態である。

これは、以前からの事であるが最近特にひどくなってきた。

この時ばかりは皆が野生に返る時であり、混雑もただのものとちょっと違う。やっとの思いで食券を手に入れると、今度も押し合いへし合いして、食べ物を持ってくる。

この生存競争に負けると、もちろん食いはぐれる。皆が整列すれば別になんともないのだが、その整列の仕様がない。だからこのようになってしまう。だがこんな状態でいいのか、いいはずがない。絶対何か問題が起きるに違いない。

この混雑については早急に何か対策を考え、立てるべきである。



随筆

好好学習天天向上（その2）

―藤原先生―

「雷鋒に学べ」このスローガンが今中国の学校、主として小学校中学校の教室の中や校舎の各所に達筆な字体で書かれている。音楽の時間、課外活動には「雷鋒に学べ」という歌劇が他の革命の歌と共に生徒間に人気があるように思えた。四十名ぐらいの生徒はいくつかのグループに分かれて、踊るグループ、演、アコーディオン、民族楽器で伴奏するグループ、歌うグループというように分かれ、一人の生徒がタクトを振れば教室全体はたちまちにして活気に満ち一大音楽堂に化してしまう。実際にこのような場面は見てみないと実感は湧いてこない（百聞一見に如かず）小学四年生ぐらいであろうか、小さな身体を質素な服に包んで、目を輝かし、あらん限りの声をはりあげて革命兵士を表現する姿は見学者をして感嘆させずにはおかない。大した迫力である。

雷鋒という人は日本軍・地主によって父母を失い、兄弟は餓死させられ、7才で天涯の孤児となった。一九四九年解放後、学校に行けるようになった。（解放前に学校に行ける子供は少数の官僚、地主の子だけだった）その後、解放軍兵士に志願し、災害救助活動の際に事故で殉職した時はわずか23才であった。雷鋒のように父母兄弟を帝国主義・侵略戦争・悪徳地主によって失くした人民は何百万何千万と数えられるであろう。中国人民、特にプロレタリヤ文化大革命の中で生まれ育った学生、生徒達にとって、雷鋒という名前は圧迫をうけ搾取されつづけた人民の象徴であると言える。昔のことを忘れずに今に活かす学校教育の教材として、実際と結びつけて学ぶ「活学活用」として、雷鋒に学ぶ運動は同時に小学生に京劇革命のにない手であることを認識させるのではなかろうか。

燎原の火のように燃えひろがったプロレタリヤ文化大革命の中で大きな役割をしたのは、この雷鋒を演ずる小学生達の先輩、紅衛兵であった。紅衛兵は知・徳・体の三結合によって、学習を主として他のいろいろの事が処理できる中学生以上の学生で学校党委員会から推薦されることを条件としている。小学生の場合は紅小兵と言われる。紅小兵・紅衛兵は学生・生徒の中心となって、学習や体育の面で劣る級友の手伝いをし、級全体の生徒が階級育の中で将来の中国を背負って立てるように努力するのである。一クラスに10％ぐらいの人数の紅小兵・紅衛兵がいて、その組織は学校別・地区別・市別にあり、学校党委員会から指導をうけ学内、学外の諸活動に参加する。紅小兵・紅衛兵は級友の憧れの的で、生徒達は皆紅小兵・紅衛兵になりたいと望んでいる。彼等はただ学習がよく出来るだけでなく課外活動に積極的に参加し、私達のような訪中団との座談会にも学校革命委員会代表、教師代表、地域労農兵と共に出席して意見を述べることができる。北京の天安門広場で、早朝より行進する中学生の一団の先頭に立ち、紅衛兵と書いてある腕章を腕に巻き、赤い旗を持っているのは紅衛兵だ。

蘇州のある公園で、私達に日中友好のために円陣をつくって級友たちの歌と手拍子に合わせて勇気凛々と踊りまくる小学三年生の女生徒も紅小兵である。

課外活動の中心は少年宮で、中国全土にわたって放課後に、地域の工場労働者、農村労働者、革命兵士、老令退職者が小・中学生を指導する場で、その地域で最も立派な建物が使用されている。北京の少年宮は素晴らしい建物であり、蘇州の少年宮は六〇〇名位収容の瀟洒な建物である。中国の父母・地域人民は自分たちの後継者は自分たち自身で育てるのだという自覚を持っており、従って学校教育は義務制を採用していない。地域人民は学校教育と共に少年宮の革命の後継者は前途が苦難の道であることを知っている。

主張

地に落ちた若高生

我々は高校生である。「何をわかりきった事を今さら――」と思われるだろうが、ではよく耳にする「高校生らしさ」とはいったい何だろう。もし諸君が、「高校生らしい高校生とは、どのような人間を言うのか」と質問されたら何と答えるだろう。諸君は高校生でありながら、おそらくこの問題を深く考えた事はないだろう。それならば今からでも、せめてこの欄を読んでいる間だけでも考えてみようではないか。高校生は言うまでもなく二十歳に満たない未成年である。街は未成年の者が法律で禁じられているものが溢れている。パチンコ、競輪・競馬、成人映画、キャバレー、麻雀――。また生徒手帳には「飲酒、喫煙を厳禁する」とある。世間一般の人、或いは高校生の多くは「高校生らしい高校生」と

は、先に列記したような未成年者には禁じられた規則に従い、学生の本分である学業に尊念する者が「高校生らしい高校生である」と考えるのではないだろうか。確かにその通りである。しかしそれにしても法律とは理不尽なものである。

規則にはたびたび理屈に合致しない点があるのは事実であるが、時間的流れの中において便宜上、或る一定の所にラインを設けるのはやむを得ない事であろう。

さて、ここで我々若高生は文頭に記した「高校生らしい」という点ではどうだろうか。各々、今一度自分を見つめ直してほしい。飲酒においては男女共に、ほとんどの人が経験済みだろう。また校内のいたる所でも親が汗水流した労働によって得た金で買い与えた物を、「盗む」という安易な手段でそれを手に入れは禁じていましめるべきだ。また学校側にも責任の一端があるようである。これ程盗難が頻発しても何も対策を講ぜず、形式とも思われるひと通りの注意をするだけ。その注意にしても、「盗難に合わないよう充分に気をつけなさい」と、盗む側よりも盗まれる側に注意を呼びかけるのみである。また、ブール下の部室（特に文化部）のほとんどは金網入りの厚いガラスの鍵のところを割られており、それが原因で再三にわたって不心得者によって部室が荒らされている。その修理を何度頼んでも予算不足等のため今だにそのままである。それにしても、もう一年以上になるのに何の手も尽くさないのは怠慢以外の何ものでもない。いったいどこまで落ちる？若高生。

親密な先生と園児

―野菊学園―

去る六月三日、日曜日、我々新聞部員四名は、吹奏楽、合唱、人形劇部等と共に脳ノ浦にある精神薄弱者の厚生施設、野菊学園を慰問した。それは緑に囲まれた大変環境の良い所にあった。

この学園は六年前、精薄者の為に国が建てたものであるから、食費以外はすべて国が負担しており、全寮制で第一日曜日が面会日となっている。入園者の年令は、十六才から五十二才迄と幅が広く、知能指数も三十から百迄の四十九名で、内、男子二十、女子二十九名である。

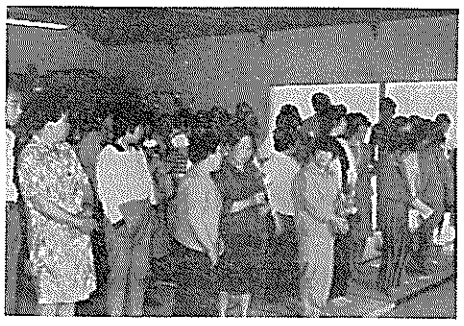
彼等は、園芸等の職業訓練で一日のほとんどを費している。

創立以来六年になるが、卒園して行った者は、一人もいない現状である。

我々が慰問したその日は、午後一時から五時間にわたり、父母に感謝の会が催された。まず園長先生の挨拶に始まり、我校生徒による演奏や楽器紹介、合唱等、又、園児からは御両親への感謝の意を表わした作文の朗読とそれぞれのお母さんへカーネーションの贈呈が行なわれた。この時、お母さん達の目には光るものが見られた。

休憩時間に、はしゃいでいる先生と生徒の間には暗等まったくなく大きな愛情で一つになった美しい姿だけが、我々の目に写った。

先生方の仕事は本当に大変だと思うが、この先生方の深い愛情があれば、園児達もしあわせであろう。そんな思いを学園に残しながら、落日を背に、我々は学園を後にした。



正しい視力を提供する
区内全眼科御指定
コンタクトレンズ特約店
アイチ眼鏡店
本町三丁目8―24　TEL(761)3312

文具・菓子
釜崎商店
小石峠若高前　TEL(761)9045

天下一品
珍軒
―本町銀座―(761)5595

準備に追われる夏休み

文化祭にかける各クラブ

新学期が始まるとすぐ、文化クラブの「晴れの舞台」である、文化祭が行なわれる。夏休みを返上して、思い中をせっせと学校に通いつめた成果である。ここで、文化部二十にテーマ、内容などを述べてもらったことを、記載しておこう。

文芸部
新アンデルセン童話館と題してアンデルセンの童話の真意を追求し、童話の裏にある社会的背景を知ることにより、当時の文学を偲ばむ。

生物部
遠征報告、洞穴の生物、微生物ドライフラワー、園芸日時、あとは未定。

物理部
テーマ「廃虚の美」、内容は、素人無線公開実験、各種機器展示、エレクトロニクス応用実験、捨例尾混砂東、天体写真展示、黒点観測。

化学部
今の化学部の活動は、文化祭を一応の目やすとし、若松区の公害状態を調べるために、洞海湾を始め、周辺の水質検査を行なっている。

地理部
対馬の自然・地理・地形を調査し、これを発表する。

歴史部
毎年のよう、考古学ばかり行なっていましたが、今年は「日本を動かした人物」プラス「考古学」を行う事にしました。多数御来場を!

英会話部
わがクラブでは、例年通り英語劇上演をめざして、猛練習に励んでいます。なお、部員不足につき一年生の入部歓迎します。

演劇部
題はまだ未定ですが、体育館二階と二の四の教室で、劇を上演します。見に来てください。

写真部
テーマを「人間」とし、課題作品と自由作品を展示し、できれば写真の引き伸ばしなどを見学させます。

映画部
我クラブの伝統的(?)な無料映画上映、ポスター販売、各映画館の紹介、新鋭俳優の紹介等です。

音楽部
昨年にひき続き、フォークソング、合唱、歌劇を行ないます。また、新しい催しとして、のど自慢大会を計画していますので、多数御参加下さい。

新聞部
今年は「青少年の非行と自殺」という問題をとり上げ、できるだけ深くほり下げてみたいと思っています。その他は未定。ぜひ、御来場下さい。

茶道部
茶道部では、茶会を開き、少しでも多くのみなさんに、茶というものに接してもらい、茶の精神を学んでいただこうと思っています。

華道部
華道部では、常例のように生花とペーパーフラワーを提示し、なお、ペーパーフラワーを当日売りますので、多数おこしください。

箏曲部
今年の文化祭では、スクリーンミュージック、日本のわらべ歌、飛躍、と現代的な曲と古典的な曲を演奏しようと部員一同頑張っています。

人形劇部
劇は、午前中一回、午後一回の二回公演。その他、人形の作り方、扱い方の指導、公演旅行の写真の掲示。マスコット人形の販売。

美術部
テーマを「若高ルネッサンス」と題し、一部屋にわたって、絵の展覧をします。

吹奏楽部
夏休みに練習した成果を文化祭の時にみんなに見てもらうつもりです。曲目はまだ未定。

放送部
レコードコンサートを行いますので、お楽しみに。それと二の一の教室で、連絡放送をしますので御利用下さい。

書道部
まだ未定です。

皆さん、どうでしたか。興味をひく内容はありましたか。文化部員は、夏休みを返上してがんばります。期待していてください。そして夏休みの成果を見るためにも、ぜひ見学しに来てください。お願いします。

(文化部員一同)

自己負担計十二万円

少なすぎる文化部の遠征費

いよいよ明日から夏休みに入るわけであるが、文化クラブにとっては、又々苦難の夏休みである。というのは、休みに入って文化クラブはクラブ内親睦の為と文化祭の為にいろいろな所に遠征に行くわけであるが、行くための遠征費がまったくたりないのである。

六月十七日、遠征費の必要な文化クラブの部長があつまり、今年の遠征費の割り当てをきめたわけであるが、各クラブ必要最少限の額を要求したのにもかかわらず全クラブ合計は全遠征費の二倍にもなるしまつ。しかしそれは無理もないことで、体育クラブの遠征費百万円に対して、文化クラブ遠征費はわずか十万円。その十万円を十一のクラブで奪い合いをするのだからたりるわけがない。結局、五時間あまりの話し合いの末、やっと遠征費の割り当てと「文化クラブ遠征費対策委員会」の発足がきまった。この委員会は、文化クラブ遠征費か体育クラブのそれとくらべてあまりに不当なためその是正を促すものである。

体育クラブの遠征費は大会に出場する時の(出場する人数)×(往復の旅費の半分)が出るわけであるが、実際には旅費のほかに遠征費にふくまれていない宿泊費も出ている。それにくらべ、文化クラブの遠征費は(往復の旅費の半分)×(五十人分まで)が出るたてまえであるが、その中には宿泊費はもちろん、目的地での活動取材費もいっさいふくまれていない。それに旅費も半分などとても出してはもらえず個人負担が多くなるばかりである。

たとえば生物部などは今年、大山の採集調査に行くのにかかる旅費五万五千円に対して遠征費としては九千円しか出ずそれに宿泊費、現地での活動費等を入れると自己負担は一人当り六千六百円にもなってしまう。これが人数の多いクラブになってくると自己負担額は大きなものになってくる。

地理部、今年は対馬に現地研究に行くが人数が三十人と多いため旅費だけで十一万円、その内遠征費は二万四千円でるが、これも宿泊費その他を合わせると自己負担金の総額は十二万円にもなってしまう。

大きな自己負担金をかかえた文化クラブ。それをなくすにはクラブ内での積み立てか、遠征の縮少しかない。文化祭をおもしろくするためにも、もっと文化クラブのことを考えた遠征費を組んでもらいたい。

文化クラブ遠征費予算

クラブ名	本年度予算
書道部	2,100
地理部	24,000
歴史部	5,100
人形劇部	15,500
演劇部	12,700
新聞部	10,600
化学部	2,000
物理部	6,500
生物部	9,000
茶道部	4,500
吹奏学部	8,000
合計	100,000

投書

若高生は堕落している!?

若高生は堕落している。

かなりの数の男子生徒が、煙草を喫っているから。でも、何故煙草喫っちゃいけないんだ。法律で決められているからだって。冗談じゃネェ。どうして二十歳になったら喫っても良いんだ。二十歳以上でも以下でも、どちらにしても喫煙が体に良い筈が無い。若高生は確かに堕落している。でもそれは若高生を、社会の目で高校生として見たらの話。若高生を、若者として見たら?そんな事を云っていて御前達は立派な大人になれるのか!!と怒鳴るのは大人の独善。立派な大人、立派な社会人なる者は、既成社会の中で温々と生きる事しか考えていない大人が勝手に設けた基準に過ぎない。この基準外の大人が出来ては困る為に我々若者を小さい頃から強固な枠の中で育て、不良品を作らないように躾ける。だからと云って物陰に隠れて煙草を喫ったら枠を脱け出せる、とはならない。でも、今の若高生の中に本当に枠の外で生きよう、と思っている者が居るだろうか。それよりも、枠の中で出来得る限りの自由と権利を駆使して少しでも楽しく生きようと考えている、準小市民の方が多いのではないだろうか。

いったい若高生は本当に若者なのだろうか。枠の中だけでしか夢を見ない単なる年足らずに過ぎないのではないか?若高生はやっぱり堕落している。若高生としてよりも、若者として堕落している。

東京のある女子高校生が、平凡で無意志的な毎日を嫌って家を出て、共同体を放浪した後、東北の方で、知り合った青年と一緒に農業を始めて、やっとその時に充実した毎日を送ることが出来たそうだ。人生は一度きりしか無いのに無難な道ばかり選んでいていいのか。ここに若高生の、イヤ全国ほとんどの高校生が堕落している原因が在るのだと思う。(かく言う私もその無難な生活の上にノホホンとあぐらをかいて毎日を過ごしているぐうたら高校生のひとりですが)人生は一度きりだから確実な道(枠の中の)を歩くのではなく、歩きたい道を歩かなくてはならない。

二年男子

先生宅訪問

子供好きなやさしいパパ

太陽の日ざしが、ひときわ強く照りつける六月二十三日、我々新聞部員五名は、数学担当の橋本先生宅を訪問しました。

広い庭のあるお宅で

その離れ(先生が、おっしゃるには掘っ建て小屋?)に案内され、回りにズラリと整頓された多くの本に感心の目を向けながら、質問を始めた。

—出身地と出身校は—

出身地は点々としたからよくわからないな。出身校は鹿児島高校を出て鹿児島大学。

—先生になられて何年目ですか—

十三年くらい。

—先生になられた動機は—

やっぱりうちの母が、先生をしていたことだろうね。

—先生になられて嬉しかったこと—

松本清張

—学生時代の思い出など—

貧乏学生だったからねぇ……。同人雑誌をつくったり、小説を書いたり、夜中に散歩をしたり、(大声で笑われて)畑の芋を盗んだこともあったね。

—モットーとされている言葉は—

「光ある光の中を歩め」

—家族構成は—

女房と子供二人の四人家族。

—御結婚は、お見合?恋愛?—

お見合だね。

—先生から見た奥様は—

そうねぇ、気がきかないで…(などと笑って言っておられた)

—奥様から見た先生は—

(にこにこしながら答えてくださって)わがままではありませんね、短気なところはありますが。

—先生は子供好きのようですが—

そうですね、子供はよく可愛がります。散歩に連れて行ってくれたり、自転車の練習なんかもさせてくれたり。(と奥様)

—自分の性格をどう思いますか—

忍耐力がない方かな。

—もし先生になっていなかったら何になっていましたか—

密航して、外地に行こうと思っていたね。

—教師という職業を一生のものになさいますか—

悲しかったことは—

そうだねぇ(と少し考えて)教え子の中に僕と同じ歩み方をした人がいる、ということかな。悲しいことは、現在の若高をみると悪しく感じるね。

—御趣味は—

色々あるけど、読本やマージャン、今、ゴルフもやっている。

—愛読書は—

橋本先生の巻

—若高生をどう思われますか—

全体的に元気がないと思う。

—男女交際について—

悪くはないと思うけど、正々堂々としたつき合いでないとこまるね。

—長髪についてどう思いますか—

長髪はいいが、現在のままではちょっとね…。もう少しきれいにしてもらいたいね。

—(最後に)若高生に要望など—

(たくさんあるよとおっしゃって)外面的に言って環、長髪、だらしがないね。内面的に言えば、勉強をもっと一生懸命にしてもらいたい。

質問が終わると、先生は「質問されることは、むずかしいね」とおっしゃって笑っておられた。

我々は、礫陵新聞について、色々とうかがった後、再び暑い中を帰途についた。

活動状態の改善を!

——放送部——

最近、我校の放送の状態がかなり乱れているように思われる。そこで、現在の放送部の実態をここに取り上げてみた。

まず、現在の放送時間がまちまちである。それは、生徒会などから依頼を受けたことを、随時放送しているからである。

また連絡中の音楽づかいがなってない。

次に、放送機器のことである。現在、特別教室には、校内放送やチャイムが聞こえない。しかし、ほとんどの先生方や生徒は何も言わない。一部で、スピーカーを特別教室にいれてくれという声が聞かれても、その声は、顧問の先生や放送部にまでは聞こえてはいないようである。

以上のことについて放送部に聞いてみると、放送時間のことについては「今後は、朝はホームルームの前、昼は昼休み中、放課後はホームルーム中に放送をするように計画している」内部については「今まで通りでだいたい生徒会などの連絡事項が主である。また、昼の放送では、放送によるクラブ紹介などをする予定です。」

言葉づかいについては「一応、発音などの練習をしてはいるが、あまり効果はないようだ」放送機器のことについては「ついていないようだ。」である。

よく聞いてみると「放送部は、放送機器の充実のことを放送部に言われても、こちらは校内放送と集会の時に、放送を出すだけだから、そんなことは先生に言ってほしい」とのことである。

現在、放送部は、曲がり角にきており、今までの習慣を脱して、新しく変わりつつあるようだ。今後の部のあり方や放送状態、放送時間など一層の改善と努力を期待したいものである。

龍そば
本町銀座 TEL (77) 4320 / TEL (77) 4407

服飾手芸専門の店
しらき
若松区明治町

広く・明るく・美しく　フレッシュ丸柏
若松
丸柏
本町3丁目　TEL (76) 1231

補習の意義は？

クローズアップされた補習問題

先日、三年生の父母有志が、学校側に非公式ではあるが課外補習の復活をたのんだことで、にわかに「補習」が、クローズアップされた。

課外補習は我校では四十五年に廃止されたが、他校ではほとんど廃止されていない。県高教組は四十二年から課外補習の廃止に取り組んできた。廃止の論拠は明快で

①進学のための補習に力を入れると正課がおろそかになる。

②生徒も先生も肉体的に負担が重すぎる。

③クラブ活動が停滞する。

④大学入試の効果も疑わしい。

などだが、実際には北九州十六高校のうち廃止しているのは、若高と戸畑中央だけである。

課外補習について父母は、徹底的にしてくれと言い、先生方は、結局は本人（生徒）しだいと言っている。では肝心の生徒は、いったい補習についてどのように思っていたのか、三年生を中心にインタビューしてみた。それによると補習を必要と思っているのは、インタビューをした80人のうち70%。

補習を受けたいか？の質問に対しては50%しか受けたいと答えなかった。補習が必要な理由として

- わからないところが多い。
- 受験をひかえた今では不安。
- 他校に引き離される。

などの意見があげられたが、反面補習無用論の声も多くある。

- 正課も満足にこなせないのに何が補習だ。
- 補習をしてもしなくても同じ。
- 効果のない補習をしてもむだ。

と強い反対意見。では、実際に行なっている高校はどうなのか。

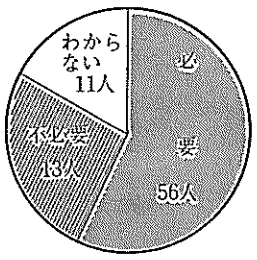
県立A高校、進学率99%、市内でも指折りの進学校である。この学校での補習は、朝七時四十分から八時半まで、一応出席は自由だが定期考査にはもちろん補習の範囲も含むし、出席も先生がチェックしているらしい。生徒達は名門校としての自覚をもって補習をうけ、血として肉として活用しているわけであるが反面、朝食もそこそこに学校にかけこむ。前夜遅くまで勉強した生徒は、ついうたた寝をする。補習に身を入れたら午後の正課の時間は……、という生徒もいる。

一度廃止した補習。学校側では「親の切ない要望はむげにできない。」といっているが、最終的には生徒からの反応であろう。だが親からの要望である受身的な補習にどれだけの効果があるか問題である。実際に補習を受けるのは生徒であって、その生徒からの実質的な要望もないのに「親の要望はむげにできない。」と、補習について考えるのは疑問である。

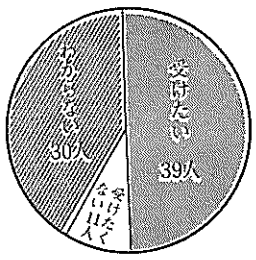
今回の父母達の要求は非公式なため、職員会の議題にはならなかったらしいが、もしかりにPTA総会等で補習要求が可決された場合はいったいどうするのだろうか生徒をぬきにして補習問題を考えるのだろうか。

今年は何年ぶりかで全学年夏期補習をするらしい。補習というものを良く味わい本当の補習の意義を夏期補習で考えてもらいたい。

補習は必要と思うか？



補習を受けたいと思うか？



他校訪問

厳しい遅刻検査

――大里高校の巻――

去る六月二十三日土曜日、我々新聞部員六名は、今年で創立十一周年を迎える県立大里高校を訪問した。

門司駅からバスに乗ろうとしてまず驚いたことは、バスを待っている人達が、きちんと二列に十五人程並んでいることであった。若松では絶対と言っていいほど見られない光景である。我々も大いに見習うべき点があるようだ。

大里高校は、門司駅からバスで十五分程の所にあり、緑に囲まれた大変環境の良い学校である。生徒数は約千二百名、クラス数は二十四と我校と比べていくらか少なく、男女の比は五対四で男子の方がやや上回るようである。

コースは三年になってから各種学校・就職クラスと文科系・理科系とにそれぞれ分かれるようになっている。

校風については、学校が創立されてからまだ新しいため何に於いても自由であるということであった。

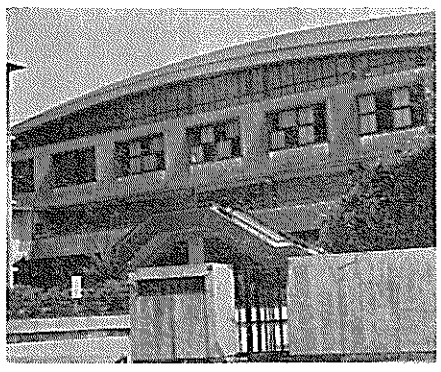
次に風紀について質問してみたところ、バイク通学は全面禁止。盗難は特に上履が多く、ロッカーもないのでこれに対する対策もとれない状態らしい。遅刻は、毎朝風紀委員が正門に立ち、調べてあるが、役員選出の際はクラスから代表者を出してその中から決めるという方式で、活動はあまり活発でないらしく校内行事程度にとどまっているとのことだった。

学校を案内してもらっているうちに気づいたことは、すみずみまで良く掃除がいきとどいていたことと、中庭や木の下などにベンチが置いてあるということだった。このベンチは、休み時間や放課後に雑談をしたり、昼食時に利用しているということで、我々にはとても新鮮に感じられた。

また、各運動部の練習風景も見学したかったが、ちょうど試験休みと重なり、試合を控えた野球部と卓球部だけしか見ることができなかった。そのために大里高校自慢の体育館もあいにくと霧がかかっており中を見ることができなくて誠に残念であった。

最後に図書館であるが、昨年完成したばかりで蔵書は約六千冊ぐらいのこと。図書館には大里高校の先生方が書かれた本も置いてあった。広さは我校の図書館の半分程であるが、窓がついていないために、実際よりもかなり狭く感じた。

この日は、若高と鎮西女子高校の新聞部の訪問が重なり、三校合同のなごやかな雰囲気の中で二時間余り、話を聞いた後、大里高校の広報部の方に見送られながら、若松への帰途についた。



は、生徒大会で自由化が話し合われたらしい。十七で、ラグビー部、弓道部、体操部（男子）などが活躍している。我校にはなかなか実い珍らしいクラブとして、地学部、ギター部、園芸部、チャレンジ同好会などが施されておらず、現在ある。チャレンジ同好会というのは言葉は規約付き通り、何にでも打ち当たっていこうという会で、最近の生徒大会で承認されたばかりなのでまだ具体的な内容については、明らかになっていないらしい。

また、クラブ数は体育部十三、文化部

新学期から実施!!

―全員クラブ制―

月曜日の六時限目、一年生は特活を行なっている。これは、文部省が強制している全員クラブ制のための一時間なのである。

全員クラブ制の目的は、いろいろあるが、かいつまんでいえば、「よりよい人間関係」の形成であるという。全員クラブ制実施の理由はこうである。先生方には一人一人に指導要領がある。その中に特別教科活動（H・R、生徒会関係学校行事など）があり、これを週に二時間入れなければならないというのである。去年まではHR一時間しかなかったので、もう一時間が全員クラブ制の時間となったのである。現在、特活はHRとして使っている。全員クラブ制を実施するには、問題点が多すぎるのである。第一にクラブ設置の問題、生徒の希望と職員の希望の調整である。生徒の希望通りにクラブを設置するなどはとても不可能である。職員の方にも、希望はあるだろう。第二に一クラブ当りの生徒数と職員数。あるクラブは一人…、というようなことになりかねない。第三に、評価の問題、第四に予算（設備、備品）の問題、その他、一時間内において何が出来るか、学年進行に伴って生ずる担任問題などがある。これらの問題を解決するには、多くの時間が必要だろう。もし、解決したとしても、はたして文部省のいう「人間関係」の形成ができるかどうか…、大きな問題をはらんでいる。

先日、一年生を対象に、中学校の時行なわれていた全員参加のクラブ活動の受け取り方を調査すべく、アンケートが行なわれた。「クラブ活動の感じ方」は？という質問に対して「よかった、おもしろかった」と答えた人が40%、「別になんとも感じなかった」と答えた人が26%、「おもしろくなかった」と答えた人が28%だった。

「おもしろかった」理由として、「友達ができた」「自由に時間を過せた」「技術が身についた」などが、「おもしろくなかった」理由として、「時間、用具が足りなかった」「部活動と変わらない」「充実してない」「人数が多すぎる」などが上げられている。

その他の質問は、「中学の時、参加していたクラブは何か」、「希望するクラブは何か」というようなものであった。この結果を参考に、よりよい解決法を導き出して、全員が、楽しく、クラブ活動ができるようにしてもらいたいものである。

全員が、月曜日の六時限目を進んで受けられるように……。

シリーズ 女らしさを発揮する

茶道・華道・箏曲部

前号から始まったクラブ訪問。第二弾の今回は、女子の多い文化クラブの中でも、特に女子ばかりのクラブ「女の城」と言ってもよいであろう茶道部、華道部、箏曲部を訪ねてみた。これらのクラブは、普段あまり活動が目立たないが、地道な活動を続けている。

まず最初に、茶道を行なうことによって、茶の心にふれ、人間らしい人間になることを目標としている茶道部を訪ねてみよう。

現在は、毎週月・金・土曜日に練習し、土曜日には、先生にお手前をみていただくのが主な活動である。また、毎年六月と、文化祭の時には茶会を開いている。その他には、毎年一回、窯元を訪問して、茶器の作り方などを見学している。

今後は、茶の歴史を学んだり、茶器などを研究していきたいと思っているそうである。

悩みとしては、茶器を一つ買うにしても・万・がつくほどお金がかかり、学校からの予算ではまったく足りないということである。また、クラブ員の減少ということも悩みの種である。

最後に、生徒への希望を書いておこう。「茶会に来られた方も、お手前を見学しないで帰られますが、私達も要領よく時間を使って待ち時間を短かくしようと努力していますのでこれからは、お手前も見学していただきたいと思います」

では次に、生花によって女性らしい女性を目ざす華道部をみてみよう。

現在の活動としては、毎週土曜日の放課後に生花をし、また、一カ月に一回、リボンフラワー、ペーパーフラワーを作っている。

悩みとしては、部員の数はそれほど少なくはないのだが、花代が高いため、練習する人が少ないということである。生徒への希望としては「多くの人に入部してほしい」ということである。

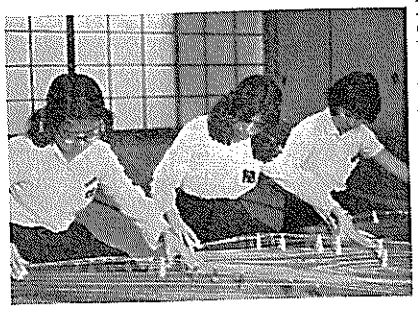
最後に、やさしい箏の音色を聞かせてくれる箏曲部についてである。現在は、明るい雰囲気の中で、ミーティングをしたり、毎日練習に励んでいる。

今後の活動としては、文化祭の練習と、十一月には野菊学園に慰問に行く予定であり、夏休みには合宿をするということである。また、文化祭では、昨年は「さくらさくら」を一般生徒に教えたが、今年は歌謡曲でもと思っているそうである。

悩みは、部員十八名に対し、箏は六台しかなく、三人に一台の割合で練習しているが、とにかく練習不足になりやすいことである。そのため、現在は一、二年の練習を分けているそうである。

また、生徒への希望としては、「文化祭には、ぜひ聞きに来て下さい」とのことである。

以上で、茶道部、華道部、箏曲部の活動が、少しでも理解できたことだろう。その活動の成果は、二学期に行なわれる文化祭で見られる。時には、花や茶、箏に接し落ち着きを取りもどし、心を休めることも必要だろう。



編集後記

皆さん、礫陵新聞第129号いかがでしたか。新聞部員一同、暑い暑い部室で、ヒーヒー云いながら作り上げました。ほら、汗がしみついているでしょう。

今号は、定員不足の執行部問題をトップに、不満多いコーラの販売機問題、文化祭、補習問題などをとり上げてみました。共鳴する記事はありましたか？

まだまだマンネリ化を脱しきれず、読みごたえがないと嘆されているかもしれませんが、私達部員にとっては可愛い、可愛い新聞です。

ここで、皆さんの希望する他校訪問のアンケートの結果がでましたのでお知らせします。なお、先生宅訪問のベスト10は次回にお知らせします。どうぞお楽しみに。

他校訪問ベスト10

- 東筑高校
- 若松商業高校
- 小倉高校
- 戸畑商業高校
- 北九州工業専門学校
- ラ・サール
- 八幡高校
- 八幡中央高校
- 戸畑工業高校
- 八大付属高校

待ちに待った夏休みが明日から始まりますね。楽しいプランを立てていることと思いますが、暑さにもめげず、有意義な夏休みを過ごして下さい。

一流の品がそろった君のための店。君のファッションがここに始まる。
JEANS SHOP WESTERN
ロータリー前　TEL 761―2026
―この欄持参の方1割引き―
MODE IN LOVE FASHION
LEVI'S
Bobson
Let's your Friend BIG-JOHN
BIG-JOHN
BISON